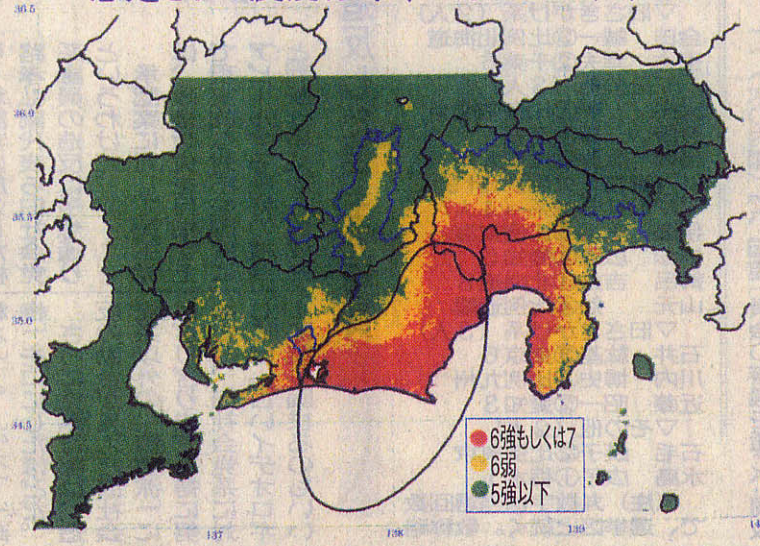


東海地震 知多半島も震度6弱予想

想定される震度分布 (11月27日公表)



● 6強もしくは7
● 6弱
● 5強以下

政府の中央防災会議・東海地震に関する専門調査会(座長・溝上恵東大名誉教授)は二十七日、最新データに基づく各地の震度予測を公表した。今年六月の見直しで想定震源域が西に広がったことを受けて、大きな被害が心配される震度6弱以上の予想地域が西側に大きく広がり、名古屋市東部にまで達した。

関連④面

東海地震はマグニチュード(M)8級とされる巨大地震。今回の見直しでは、過去の地震からの経験則と、地質データから理論的に計算した揺れ

政府調査会 西側に範囲拡大

方を合わせて評価した。震度6弱以上の揺れが予想される地域は長野、岐阜、愛知、神奈川、静岡、山梨の六県で、従来と同じ。愛知県では、見直しによって震度6弱の予想地域が名古屋市中心部や知多半島にまで広がった。同県以外は、ほぼ従来の防災対策強化地域の範囲内で、長野県の諏訪湖東南部と山梨県北部の一部地域が加わった。

中央防災会議では今回の結果を基に一月にも、新たに震度6弱以上と想定された地域を強化地域に指定するかどうかの見直し作業に入る。自治体

の意向を聴取して来年三月までに決定するが、愛知県では新城市だけが指定されている強化地域が「性がある」としている。

東海地震 1944年の東南海地震発生時に震源にならず、エネルギーが解放されないまま残った駿河湾周辺を震源として起きるとされるM8クラスの地震。国は、78年に制定された大規模地震対策特別措置法に基づき、現在、静岡、神奈

見直しは初めてで、二年ぶりとなる。この日は津波の予測も同時に発表。静岡県伊豆半島の先端部で三層以上

に三層以上とされた。中でも浜名湖周辺、御前崎、伊豆半島西部は五十層の見積もり。また、千葉県の房総半島の突端や神奈川県湘南海岸の一部なども新たに指定された。

半島南部から愛知県の渥美半島先端を結ぶ区間のほぼ全域と、三重県志摩半島の先端部で三層以上

内閣府では「海岸や港には堤防が整備された場所が多く、現状で大きな被害が出るのは一部の地